平成 24年 1月 1日
第 56 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602



今年もはばたく龍の如く

あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、3・11東日本大震災、原発災害、各地での水害など自然の猛威にあらためて震撼させられた年でもありました。今年こそ平穏な年でありますよう年頭にあたり心より祈念したいものです。

さて、「農地・水・環境保全向上対策」事業はこの3月をもって当初活動予定の5カ年を終了することとなりました。この間、農家はもとより非農家の方も一体となっていただき、八方原農地の環境整備に取り組み、営農活動の円滑化に立派に貢献できたものと大変嬉しく思っています。また年度半ばには、農業施設の長寿命化対策として懸案だった破損水路の改修にも着手することができました。

最近の情報ではこの対策事業は次の2期目も引き続いて施行されるようであります。皆様方の一層のご協力を得て、鋭意取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

今年の干支は「辰」、辰は龍の背中に乗って、天を翔けめぐるような猛々しさを秘めた行動力を持っている干支といわれています。私たちは予想される厳しい一年、この龍のように、逞しく持ち前の行動力で堂々と駆け抜けて参りたいと思います。

なお小誌はこの新年号をもって56回の号数を重ねることができました。今後とも、「八方原の環境を守る会」の活動はもちろんのこと、八方原のタウン誌として各般にわたり情報発信して参りますので、ご愛読くださいますようお願い申し上げて、新年のごあいさつといたします。

代表 原田憲一郎

チームハッポウ今年も挑戦

山口市駅伝競走大会が1月15日、きらら博記念公園特設コースで行われます。八方原地区の有志で構成する「チームハッポウ」は今年も出場することになりました。

昨年が一般2部で7位と好成績であったために、本大会は一つクラスが上がって一般1部での出場となりました。結果はともかく「チャレンジ」する気持ちを大切にしたいと思います。みなさまご声援をよろしくお願いいたします。

チーム監督 原田茂樹

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

大森水路改修が完工


完成した大森地区の水路

八方原農地の整備は昭和45年に遡ります。山口県の土地改良事業としては第1号と言う記念すべき事業でした。今から40年以上前にこうした事業に取り組もうとした先人たちの意欲には尊敬の念を禁じ得ません。

それから稲作を中心に農作業の効率化を目指してきました。その生産を支えてきたのは、圃場、農道、水路、揚水施設などの工作物です。コンクリートの耐用年数はほぼ40年。つまり、当地区の施設全体の耐用寿命がきてしまっているということになります。実際にはすぐに崩壊するような状況ではありません。きちんと手当をすれば、まだまだ使える設備と考えています。

しかし、傷みは少なくありません。前号までに逐次お伝えしていたように年次的に改修を進めていくこととしました。今年度の改修箇所は一番北側の用水路です。予算との兼ね合いで最も損傷に大きな部分およそ150メートルを対象として計画を立て11月中旬から工事を始めました。天候にも恵まれ、12月初旬に工事が完了しました。ご協力ありがとうございました。

ワイワイ賑やか料理体験

12月4日、生活改善グループは子ども会のメンバーを招いて郷土料理の体験交流会を開催しました。

生改連のメンバーが用意したレシピは「ゆず寿司、芋の茎のきんぴら、柏椀、大学いも、いとこ煮」の5品でした。

三角巾にエプロン，マスクの豆シェフも生改連のベテランたちに教わりながら、材料を刻んだり、盛りつけを行ったり、大張りきりでした。

こうした活動は郷土料理が受け継がれるようにと毎年行われており、伝統の継承を進めています。また、県の農林事務所は側面からこの活動を支援しています。


料理の最後の盛りつけは「お任せ！」

できあがった料理はみんなでいただきました。ごちそうさまでした。

農業高校の先生が視察に

12月8日、山口農業高校の束田（そくた）校長以下教職員20名が八方原の農業生産現場の現況を視察に来られました。

同校では農業生産現場の担い手不足などの問題などへの取り組みとして、農繁期の作業に生徒の実習参加ができないか、それらを授業の一環として実施ができるかどうか調査を進めているとのことです。すぐに実現するとは思えませんが、この新たな試みの行方、しっかり見守って参りましょう。

八方原ふれあい朝市
1月14日（土）より

ばあちゃんたちの最新ネット端末



「スマホ」や「タブレット」などという言葉をお聞きになっていると思います。右の画像はNTTが販売しているタブレット端末です。このタブレットを高齢者の方が使いこなしているというニュースが昨秋、多くの人々を驚かしました。

徳島県上勝（かみかつ）町は、料理のつまもの「葉っぱ」ビジネスで一躍有名になりました。生産品が変わっていることも注目を浴びましたが、「消費者が求めているものを提供する」姿勢も見逃すことはできません。

当初は市場の価格をファックスで流してもらい、それに合わせて出荷していたのですが、より早く提供したいとコンピューターになり、とうとうタブレット端末を生産者が持つようになったのです。決して若くはない生産者ですが、時代の流れを見逃してはいませんでした。